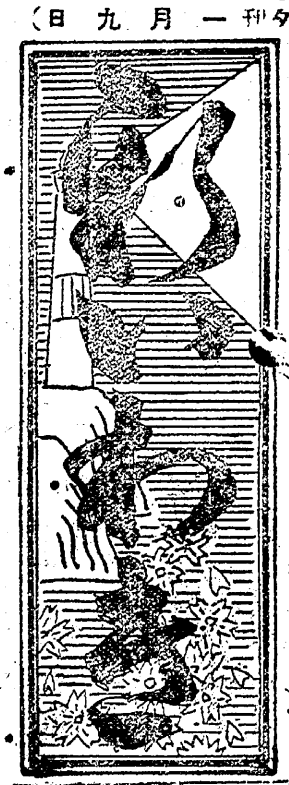
昭和五年三月三十一日 第三種郵便物認可 (日刊)　昭和七年一月十日　新いわき　(日曜日)　第五百卅二號　(一)

(夕刊 一月九日)



本日晴大雪
一ヶ月 廿五錢
一部 一部 二十五錢
廣告料 一行四〇錢 場所指定 廿字詰
發行所 新いわき新聞社
印刷人 牛谷政雄
發行兼編輯人 鈴木義雄

假に政變があつても 米價は下るまい

平地方米商側の觀測

今九日は一駄十四圓廿錢

現政府にとつて重大事件突發の爲め農村が漸く更生の氣に向いた米價が急下しはせぬかと非常に恐慌を以て見られてゐるが今九日に於ける平地方の取引は

磐城五 等米一駄十五圓九十錢の中央市場相場に對して鐵道運賃一圓を差引く十四圓九十錢より六七十錢方低い十四圓二三十錢で尚ほ米商側の見込みでは假りに政變があるにしても

大體に 於て現内閣と政策を同じくする政府が出來るであらうし外國相場が動かない限り相場に狂ひが來る樣なことはなく當分現在の高値落付であらうと云はれてゐる

緣起のよい申年に 是こそ本當の馬力

石城の産馬組合に於て 生産の一割增加を奬勵

石城産馬畜産組合では昨年來馬匹の生産一割增加を奬勵中であるが本年は古往から唱ひられる午と仲睦ましい申年の好緣起なので所期の計畫に

一層の 馬力を注ぎ流産防止に就て專任の上川技師が昨年秋から調査中である時期原因の的確な材料を來る四月までに取纒め指導方法を講ずることになつた同郡現在の

流産頭 數は種付二千頭に對して毎年二百頭を下らず尚ほ生後斃死七八十頭あるので約三百頭の仔馬を失つてゐる之れを昨年の駒糶平均價格一頭四十七圓で採算すれば一萬四千餘圓の生産

收入を 各飼養者によつて損失してゐる實に莫大なものである之れを防ぎたいと思つてゐるが是迄の調査の上では放牧慣行の方部地に割合流産が多い樣である

藤田分會長

訓示全文

昨紙に續く

特に聖諭の最後には『況しらや此の五ヶ條は天地の公道人倫の常經なり』と仰せられてある如く其の精神たるや決して軍人にのみ必要なものにあらずして國民擧つて眷々服膺すべきことを明示せられて居ると思ふのであり

ますこゝに勅諭下賜五十周年の記念日を迎ふるにあたり吾々は過去に於ける我國軍活動と戰績の基底が此の聖諭の精神であつた事を顧ひ現代將來ともにこの聖諭を奉戴して愈々國家興隆のために努力し陛下の股肱たるの御期待に添ひ奉らん覺悟を愈々固くするものであり

ますこの機會に於て一般町民就中國家社會の前途を其の双肩に擔ふべき有爲にして元氣旺盛なる青年諸君がこの聖諭の精神を奉戴し益々國運隆昌のため直路邁進せられんことを望んで止みません

本日記念式典を擧行するに當り殊に當町青年訓練所生の參加を乞ひ又關係代表者諸彦の御來臨を辱ふしたのも一にこの意に外なりません今や帝國内外の情勢は極めて重大なる時局に直面して居ると信じます、國民は擧げて輿論を一点に指向し大なる緊張と一大覺悟を要する秋であります諸君各々は一層自重自愛せられ一段の御精勵と御健闘とを祈るものであります最後に本式典に御臨席下さいました來賓各位に心から敬意を表し且つ厚く御禮申上げます(完)

政變を傳へられて 地方商人一時狼狽

大した影響はなさそう

昨八日の不敬事件突發で政變を傳へられた平地方の商店殊に綿糸綿花毛糸類の關係筋では在庫品が大體片付たので新荷買入を商約せるものもあり一時は非常の狼狽を以て中央問屋との打合せに平局の電報取扱を若干賑はしたが八日の市場が綿糸類に最初五、七圓安を唱ひたるも板場に强みを呈した東都市場の模樣から二三日中の落付を見て仕入方針を定むるものゝ如く右に就て某呉服商は左記の如く語る

政變再び急を傳へられた地方に於ても官民共に深關係當業に對する適當の分甚の注意を拂つてゐる所だが商人側としては財界俄かの變調が一番打擊である何せ目下のところ品が高いので先越不安でもあり且つ資金が乏しい爲めに一般に大仕込みが出來まいから大した影響はないでせうと

湯本町の 火防宣傳

石城郡湯本町消防組は去る六日の御親閲記念日を下して火防宣傳の爲め組員總出動並に小學生三百餘名を合する旗行列をなし全町に宣傳實行の各戸の電檢査及び傳單の配布した

磐崎村の 消防デー

石城郡磐崎村の消防組では去る六日の消防デーに於て火防督勵並に器械器具の檢査を行ひ『火の用心』の印刷物を村内各戸に頒布し警火思想の普及に努めた

磐崎消防 ポンプ購入

石城郡磐崎村消防組の第五部馬玉部落では運搬ポンプを新調中であつたが此程到着したので去る六日右購入披露式を擧行した

理髮組合 總會延期

平署管下理髮業組合では來る十日平町に總會開催の筈であつたが種々なる事情により四月の櫻花期に延期することになつたと

新川堤防改修工事

斯ん度は警察署裏

百四十七間を七千餘圓で 工事着手は來る二十日頃

平町南町裏新川堤防の改修工事は向後尚ほ數ヶ年の繼續で行はれるが今六年度分の施行區域である平署裏の一帶に添ふ土木監督所脇の横通り迄に至る百四十七間この檢定工費七千三百八十圓に對し縣補助三千五百九十六圓の指令があつたので九日午前十時から平町外二ケ村水害豫防組合では同町會議室に委員會を開き請負者の決定その他右工事施行に關する協議を遂げたが着工は來る二十日頃になるらしく年度内に竣功の見込みである盛況を見たので愈よ明十日午後一時第一小學校に教育會の役員會を開き審査方針を決めて右日刊四社關係者の外審査員の推せん並に審査期日を決定することになつたが豫報の如く何れも佳作揃へであると

審査に上る「平小唄」 應募二百七十二句

明十日平教育會の役員會 審査員と審査期日の協議

平町教育會が同地方の名勝をひろく紹介すべく俗謠平の小唄の懸賞募集を地元日刊新聞四社の應援を以て募つた結果五十餘名の應募者あるは既報の如く此の總句數實に二百七十二句に達す

協定漸く成る 遊興税

今度は現金徴收が苦勞

平町が八千圓を割當てられた昭和六年度の遊興税は各及び飲食店のみとなり之れも近く決定の模樣であつて

配負擔で徴收することになつてゐるが打續く不景氣のため何れも納税難を訴へ協定困難を告げてゐたが藝妓料理屋が濟んで第二の難物の横通り迄に至る百四十七間から平年四月に及ぶものでこれは又門迄歩くも大儀らしい

◎一日のぎよけい炬燒へ收よせる

◎門松にすかる禮者はきげん過ぎ

◎正月は隣りからでもしやちこばり

◎七くさを娘は一つ打つて逃げ

◎春の音にしては七くさせわしなし

◎すりこぎで何の鳥だか二度叩き

◎猿と虎渡らぬさきとから云ひ

◎ストドントンなアる程

佳素記女

（五）

魔寸像生

昔の年始帳現今なれば年賀の端書主人は旅行欠禮の新聞廣告をしながら

これは又律義千萬ヤアおめでたうですむところを

唐土の鳥を忘れて何の鳥だと聞く中に手の方が烈しく動く

日本なら唐土の鳥だが今の唐では日本兵なるべし

註猿は秀吉虎は加藤清正を指す

着手に當ての注意（三）

果樹培栽

石城農試分場長　稻田技師

品種天津（四本）昭和二年度一五個、五四八匁、同三年度九五個、三貫九八三匁、同四年度三一〇個一五貫〇七五匁、同五年度九六〇個、三八貫七九七匁、四ヶ年平均三四五個、一四貫六〇一匁、一本當收量八六個、三貫八五〇匁

品種離核水密（二十本）昭和二年度七一八個三三貫八八六匁、同三年度七八〇個、三一貫二七九匁、同四年度三六三三個、一六七貫一一八匁、同五年度六〇五六個、二六三貫九二〇匁、四ヶ年平均二七九七個、一二四貫〇五五匁、一本當收量、一四〇個、六貫二〇三匁

品種傳十郎（十本）昭和二年度二八六個、一〇貫八九二匁、同三年度三七一個、一四貫七五八匁、同四年度一五八九個、七〇貫〇一〇匁、同五年度二一三〇個、九六貫七二八匁、四ヶ年平均一〇九四個、四八貫一八三匁、一本當收量一〇九個、四八一八匁、

品種大統領（二本）昭和二年度二七個、一貫一七五匁、同三年度一〇六個、四貫二〇七匁、同四年度一七貫〇一〇匁、同五年度一四〇五個、一七貫〇一〇匁、同五年度三一二個、一四貫一三〇匁、四ヶ年平均二一〇個、九貫一三〇匁、一本當收量一〇五個、四貫五六五匁

平町

紺屋町

▶入院應需◀

藤沼醫院

電話五〇七番

元詰 G・H・N スペイン

甘味葡萄酒

ゴルフポートワイン

〒 1・10

御婦人の方には少し水を加へて召し上るとお風味一そう佳良です

（平二）西村屋藥舗（電三）

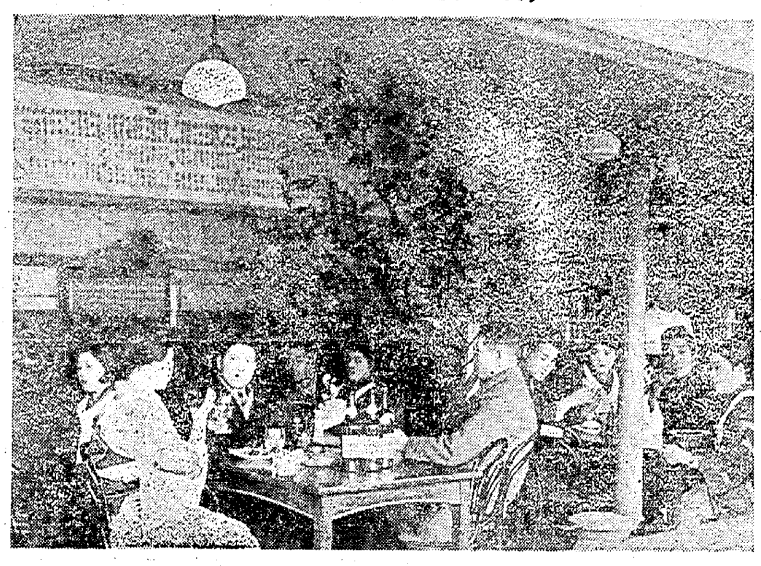
お醬油は……ヤマフル

醬油　味噌　たひら　正宗　鰹節　食料品

鹽屋　山崎合名會社

福島縣平町　電話（營業部一〇番　本店二七番）

（食堂の一部）



四品付定食五十錢、五品付定食一圓

平町、四丁目　電話、五七六　カフエーボタン

西洋支那料理共に自慢の腕

●寒さ知らずの暖房裝置

●居心地のよいソフアー

●晴やかな女給のサービス

平驛前　カフエータヒラ（電話六二〇）

女給さん數名入用

服んで良くきく

（絶對に胃腸を害さぬ）

淋病と消渴の特効藥　濟淋

平町一丁目

本舗　責任製劑　水野藥局

振替貯金口座　仙臺八八七六

冬服の御用命は高島屋へ

新柄着荷

模範裁縫

高島屋洋服店

平町驛前　電話三八六番

サロンの黑ビール

レストランサロン

平町　電話三五二

諸毒トシの大妙藥

安流丸

平町五丁目角

特約　山野邊藥局

時局重

景氣漸く回復の兆候新

內閣の施政や如何に對

大の秋

滿政策刻々のニユース

ラヂオー

四球式　A三十三圓　B三十圓

スクリンドグリット球　五球七十五圓

附屬工事取付一切

月賦、日掛歡迎

富永ラヂオ店（シクム）

平驛前（電話四九六番）

溫かい暖房裝置と氣持よいクッション

▼清楚な日本間もあります

總てを女給に命じて御緩つくりと御寬ぎ下さいませ

平公園表坂

のカフエー松ケ岡